

令和4年度 学校経営報告

東京都立神津高等学校
校長 中間 均

1 今年度の取組と自己評価

- (1) 評価資料 ①学校運営連絡協議会による学校評価アンケート
②生徒による授業評価
③授業公開時における参観者のアンケート
④各分掌主任の意見
- (2) 重点目標と方策の自己評価

取 組	自 己 評 価
<p>1 学習指導</p> <p>①習熟度別授業、少人数編成授業及びTTを活用し、生徒の学力向上を図る。</p> <p>②オンライン授業を充実させ、災害時でも生徒の学習活動を保障する。</p> <p>③教科会や校内研修会（授業評価等）及び教員の相互授業参観を活用し、分かる授業を展開する。</p> <p>④長期休業中を活用し、東京都教職員研修センターが開催する教科等・教育課題研修等に複数の教員を参加させ、教科指導力の向上を図る。</p> <p>⑤外部模試及び定期考査・実力テスト等を活用し、生徒の学力を把握することで3年間を見通した学習計画を策定し、学習指導方法の計画的な改善を図る。</p> <p>⑥宿題や課題に対する確実な提出指導を徹底し、「最後までやり通し、諦めさせない指導」を継続する。</p> <p>⑦神チャレやサタデー神チャレにより、基礎学力の定着と学力の向上を図る。</p> <p>2 生活指導・進路指導</p> <p>①基本的な生活習慣及び規範意識を確立し、生徒の精神面の充実と向上を図る。</p> <p>②安全教育を実施し、健康と安全保持の充実を図ると共に事故防止に努める。</p> <p>③部活動の兼部を推奨し、部活動の活性化と体力の向上を図る。</p> <p>④部活動等と学習活動との両立を図り、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育てる。</p> <p>⑤3年間を見通したキャリア教育計画を策定し、</p>	<p>1 学習指導</p> <p>①生徒による授業評価を年2回実施し、各教科で授業改善の方向性を検討し、生徒にフィードバックしながら、さらなる工夫を模索した。</p> <p>②各学期に1回オンライン授業を行い、デジタルサポーターを活用しながら、全教員がオンライン授業を行えるスキルを身に付けた。</p> <p>③月1回の教科会、教務部研修を通し、学校として指導と評価の一体化に対する共通理解を高めた。また、中学校と連携し、年間を通して中高の相互授業参観を実施した。</p> <p>④教職員研修センターの専門性向上研修へは3名が、民間の指導力向上研修へは3名が参加し、教科指導力の向上を図った。</p> <p>⑤ケース会議を実施し、各教科からの成績経過分析の報告及び今後の指導計画を検討共有し、生徒への学習指導の充実を図った。</p> <p>⑥ICTによる学習状況調査しそれを活用した他、全教員による指導を粘り強く実施した。</p> <p>⑦神チャレ（放課後学習）、S神チャレ（定期考査対策）、SS神チャレ（大学受験対策）、検定試験対策補習、補講等を実施し、生徒が意義を見出し主体的に参加した。</p> <p>2 生活指導・進路指導</p> <p>①基本的な生活習慣が確立している生徒もいる一方で、生活習慣が乱れ、学校生活に支障の出ている生徒もいる。引き続き家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣の確立及び規範意識の向上を図りながら、精神面の成長を促していく。</p> <p>②毎朝、生徒登校時に健康観察を兼ねて見守りや安全指導を行い、生徒の心身の健康状態や服装等の把握に努めた。経営企画室と連携のもと、危険箇所の排除し安全を保持する体制</p>

望ましい勤労観・職業観及び社会性や協調性を育成することで進路実現を図る。

- ⑥進学サタデー神チャレ（SS神チャレ）により、進学者の学習への取組の意識を向上させる。

3 学校経営

- ①学校評価アンケート結果等を基に生徒の実態と課題を把握し、適切で効果的な教科指導法の改善を図る。
- ②校務分掌の取組目標と課題を学校全体で共有し、全教職員が一致して課題解決に取り組むとともに、組織対応力を向上させる。
- ③自律経営推進予算の編成と計画的・効率的執行及び施設管理を行い、教育活動の充実を図る。
- ④教職員が相互に信頼し、協力し合える職場環境の構築を推進する。
- ⑤校内研修等を通して、いじめや体罰等の服務事故の根絶を目指す。
- ⑥オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシーを、各教科及び特別活動の中で学ぶとともに、スポーツが平和の礎であることを理解させる。
- ⑦特別な支援を要する生徒の対応として、個別支援計画を策定し対応する。
- ⑧管理職が教職員の在校時間を適切に把握し、必要に応じて指導・助言等を行うことで、全ての教職員に対し、在校時間に対する自己管理意識の醸成を図る。

を整えた。安全教育について神津島村の実態に応じて役場、駐在所、保健所、病院等と連携し、心の健康講話などを実施した。

- ③部活動の兼部者が増え、活発な活動が見られ体力の向上が図れた。今後は地域住民と連携する機会を増やし、地域スポーツを活性できるような取組を図る。
- ④学習活動を基本として、部活動に参加し両立していこうとする生徒が増えた。部活動を通して生徒が主体的に意見を出し合い、教員との調整を図っている場面が多く見られ、改めて教育活動の中での部活動の効果を認識することができた。
- ⑤生き方について考える講演会等を実施し、今後のキャリアについて、選択科目も含めて理解する契機となった。
- ⑥SS神チャレの実施したことで、大学受験に向けて主体的に学ぶ姿勢の醸成が図れ、さらに団体戦の雰囲気が高められた。

3 学校経営

- ①アンケート結果から98%の生徒が授業に満足しており、適切な指導方法や教材準備が実践できた。一方で、主体的に学習に取り組む態度には課題を感じている生徒も多く、自立した学習者の育成に向け、授業改善を進めていく。
- ②企画調整会議を機能させて、各分掌、学年主任を中心とした組織体制を強化した。報告・連絡・相談を徹底しより情報共有が図れ、組織的な対応が実践できた。
- ③毎日の打ち合わせにより、経営企画室の経営参画を促し、予算編成指針に基づいた予算執行を実施した。一方で、コロナ禍もあり、旅費の執行については課題が残った。
- ④風通しの良い職場環境づくりに努め、教職員間が良い雰囲気の中、協力、連携し業務を遂行した。
- ⑤いじめ防止対策研修を3回実施した。生徒同士の関係、部活動の実態やTPOに応じた生徒トラブルなどあらゆる場面を想定し実施した結果、教員全員でいじめ根絶を目指す指導体制が整った。体罰とサービスに関する研修を年に3回実施し、サービス事故発生件数0であった。
- ⑥保健体育や社会の授業を中心にオリンピック・パラリンピックについて学んだ他、村民運動会でのボランティアスタッフとしての役割を通して、スポーツが果たす役割が重要であること理解した。
- ⑦特別な支援を要する生徒について、個別に発達

<p>4 特別活動・部活動</p> <p>①地域に根ざした「総合的な探究の時間」や環境教育（地域美化活動）を実施するとともに、学校施設開放を積極的に行い、地域に開かれた学校づくりを行う。</p> <p>②地域の教育力を部活動等に活用し、恒常的な活動を目指す。</p> <p>③東京都及び神津島村と連携し、防災教育の充実に努める。</p> <p>④黒潮祭等の学校行事や村民運動会等の村の行事を成功させる。</p> <p>⑤各授業の中で、読書活動の推進を図ることで、未読率を下げる。</p> <p>⑥子供の基礎体力向上方針に沿って、生徒の体力を向上させる。</p>	<p>検査を実施し、支援方法について改善を図った。一方で、生徒への支援について、学校全体で共有する機会を十分にもてなかった。次年度は支援の流れや手立てについて、全体で共有する場を増やしていく。</p> <p>⑧教職員全体の在校等時間は減少傾向にあるが、年間を通して十分とは言えず、引き続き時間を意識した管理意識の醸成を図る。特に残業時間の多い教員に寄り添い、改善対策を検討する。</p> <p>4 特別活動・部活動</p> <p>①「総合的な探究の時間」で、年間を通して地域と連携した活動を行うことができた。さらに、ビーチクリーニングなどの地域美化活動を実施した。学校施設開放については、11団体、年間265回の利用があった。</p> <p>②部活動において地域の開放事業に参加する生徒が増加した。教員だけでは学べない新しい知識を得るとともに競技者との交流は新鮮であり部活動のさらなる活性化に繋がった。</p> <p>③避難所設営・生活体験訓練も神津島村福祉課の協力のもと円滑に進行できる訓練を実施できた。また、海岸で起こりえる災害、応急についての講話をダイビング協会と連携することで実体験に沿った災害を生徒が知ることができた。さらに、神津島村総合防災訓練に参加し、トリアージ訓練、津波タワー避難訓練、自衛隊との交流など島の災害について身をもって感じることができた。災害への関心と共に村民としての防災意識を向上することができた。</p> <p>④各クラス、部活団体が工夫を凝らした催しを考え黒潮祭実行委員会を中心に黒潮祭を成功させた。コロナ禍という状況下であったが感染予防対策を適切に考え、楽しさと同時に来校者の安全も考慮した黒潮祭を開催できた。村民運動会については生徒が誘導、放送、招集などの主要な役割を担い、円滑な運営に大きく貢献した。</p> <p>⑤ICTを活用した調査で読書をする習慣がないことがわかった。各授業やリーディング神チャレを通して、読書を習慣化させていく。</p> <p>⑥授業や部活動を通して、体力についての必要性や重要性について啓発を図った。4年ぶりに実施された村民運動会は、スポーツの振興を図る契機となった。</p>
---	---

「数値目標」達成状況

	項 目	数値目標	結 果
学習指導	授業満足度	90%以上	
	日本漢字能力検定 実用数学技能検定 実用英語技能検定 パソコン検定 世界遺産検定	合格者の合計 15人以上	合格者の合計 14人 (R5.3.28 現在)
	長期休業中の補習・補講	20講座以上	36講座
	生活指導満足度	80%以上	92%
	遅刻回数	一日平均 1.3人以下	0.76人
	服装違反での再登校指導者	0人	0人
	飲酒・喫煙、暴言等での指導者	0人	0人
	原級留置及び中途退学者	0人	0人
進路指導	進路指導満足度	90%以上	89%
	国公立大学合格者	1人	0人
	第一希望への進学・就職	100%	95%
	進路未決定者	0%	9% (R5.2.28 現在)
その他	部活動加入率	100%	94.4%
	中学生体験授業	1回以上	1回
	小・中学校への出張授業	2回以上	1回
	授業公開での来校者数	3日間合計 100人以上	108人
	ホームページ更新回数	月平均 5回以上	月平均 10回以上実施
	学校施設開放	開放回数 300回 利用者延べ人数 3,000人	開放回数 265回 利用者延べ人数 3,909人